

次世代のリーダーとなる消化管内視鏡医を育成

診療科としての人材育成のポイント

消化管内視鏡科では「次世代のリーダーとなる消化管内視鏡医を育成する」をコンセプトに指導を行っています。その特色として、

- がんの特化した高度専門医療機関での豊富な症例
- 日本、世界をリードするスタッフによる指導
- 臨床・研究・教育を高いレベルでかつバランスよく実践する環境
- 各科との良好な連携による患者本位の医療
- 豊富な海外研修医との交流

などが上げられ、レベルに応じて学会・論文活動や臨床研究の計画・実践などの機会もあり、次世代リーダーの育成として、コミュニケーション能力の習得や専門的な内視鏡診断・治療の習得などにも力を入れています。

世界レベルの消化器内視鏡医を目指して

国立がん研究センター独自の環境

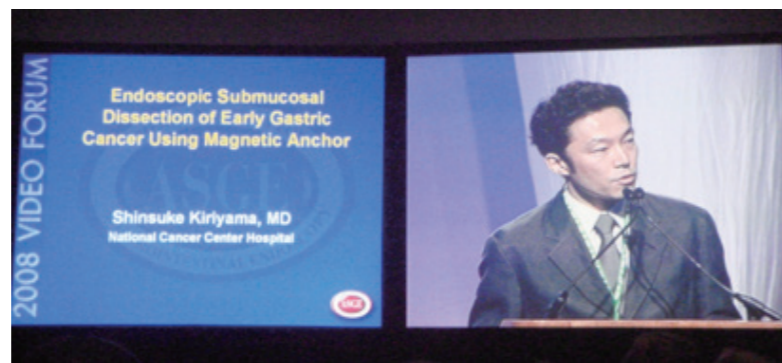
- ・ がんの特化した高度専門医療機関
- ・ 日本、世界をリードするスタッフによる指導
- ・ 臨床・研究・教育を高いレベルでかつバランスよく実践する環境
- ・ 各科との良好な連携による患者本位の医療
- ・ 豊富な海外研修医との交流

消化管内視鏡科の特徴

- ・ ルーチンから精密検査まで豊富な検査
- ・ 数多くの EMR/ESD 症例
- ・ 学会・論文活動の機会と実績
- ・ レベルに応じた研修

次世代リーダーの育成

- ・ コミュニケーション能力の習得
- ・ 専門的な内視鏡診断・治療の習得
- ・ 臨床研究の計画・実践

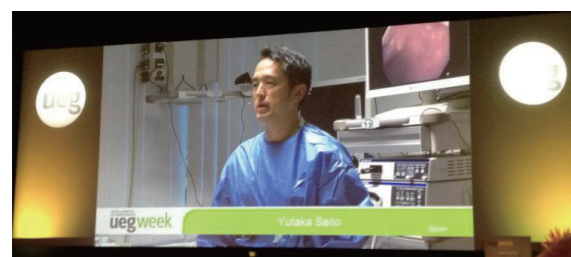


日本トップレベルの豊富な症例数とレジデント経験症例数

検査・治療	人数
上部消化管内視鏡検査	14000
下部消化管内視鏡検査	4500
超音波内視鏡検査	800 [※]
EUS-FNA	450 [※]
胃 EMR/ESD	400
食道 EMR/ESD	200
大腸 EMR/ESD	2500

※胆膵症例を含む

検査・治療	レジデント経験症例数 (年間平均)
上部消化管内視鏡検査	500
下部消化管内視鏡検査	150
胃 EMR/ESD	30
食道 EMR/ESD	10
大腸 EMR/ESD	100



研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院
内視鏡科 (消化管)



教育担当：
吉永 繁高



メールアドレス：
shiyoshi@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html>



Facebook 中央病院 教育・研修情報

<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>



充実したカンファレンス

月	7:45-8:30	抄読会、内視鏡センターミーティング
	17:30-18:30	大腸症例検討会
火	7:15-8:00	大腸癌・多科目連携ミーティング
	18:30-19:00	大腸術前カンファ
水	8:00-8:30	食道症例検討会
	17:30-18:30	病理検討会
	18:30-19:30	食道術前カンファ
木	7:30-8:30	胃症例検討会
金	7:15-8:30	胃術前カンファ



カリキュラム

レジデント(3年、2年) コース

内視鏡検査の経験を持つ一定の条件を満たす医師を対象とした3年、または2年のコース。幅広い知識・技術習得のため、画像診断、病理、内科系(外科医ならば外科系)などの関連科のローテーションを行い、がん専門医としての総合力向上を目指すため3年コースを推奨する。消化管内視鏡科においては豊富な症例のもと、専門的な内視鏡診断・治療の習得とともに専門医取得を目指す。※検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も選択可能。

がん専門修練医コース

当センターのレジデント修了者、または消化管内視鏡専門医取得済みもしくは取得見込みである医師を対象とした2年間のがん専門修練医コースでさらなる専門性の習得を目指す。若手内視鏡医の指導のみならず、臨床研究を計画・実践し、学会・論文活動に積極的に取り組む。※検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得と、内視鏡検診に関する研究を行なう研修も選択可能。

レジデント短期コース

6か月から1年6か月間まで延長可能な研修コース。現在の所属医療機関でも内視鏡診断・治療が可能な方がより専門的な症例を経験し、知識・技術を習得を目指す。

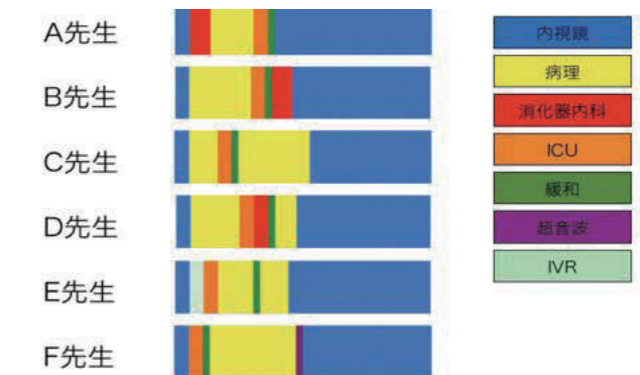
任意研修

他の医療機関で勤務し、内視鏡診断・治療の知識と経験を増やしたいと希望する先生向け。時間、内容、期間とも、研修者の希望に応じて任意に設定することができる。

※消化管・胆膵内視鏡エキスパートコース

消化管内視鏡科および肝膵胆内科の2科において消化管・胆膵内視鏡の専門的な知識・技能を習得する。主2科で全期間の最低3/4の期間の研修を必須とし、どちらかの科は最低1/4はローテートする。(レジデント2年コースまたはレジデント短期コースで選択可)

・ローテーション例(いずれもレジデント3年コース)



※連携大学院コース(内視鏡 PhD コース)

レジデント2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせてプログラムで、消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本から高度な知識、技能を習得すると同時に、学位取得を目指す。(がん専門修練医への採用には、再度選考試験があり、不採用者は任意研修の立場で大学院に在籍は可能)

レジデントプログラム ■ 内視鏡科 (消化管)

§ 推奨するコース

●レジデント3年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:総合内科専門医、外科専門医
研修目的	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・ 専門医取得:消化器内視鏡専門医 ・ 研究:国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
研修内容	・ 第1年次初期および第2年次前半から第3年次にかけて消化管内視鏡科を研修する。ローテーション期間は18か月以下とする。 ・ ローテーション期間では、病理科など診断部門および内科部門が選択可能である ・ 検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も可能である
研修期間	3年間 ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う
研修の特色	・ 消化器内視鏡を中心に幅広い診療経験をつむことが可能 ・ 内視鏡の基礎となる病理科での研修も可能 ・ 国内・国際学会、Peer review journal論文執筆等の研究活動の機会も確保 ・ 成績優秀、人物的にも優れている医師は消化器内視鏡専門医・指導医コース(チーフレジデント)に推薦

●がん専門修練医コース (消化器内視鏡専門医・指導医コース)

対象者	・ 新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す者 ※サブスペシャリティ領域専門医:消化器内視鏡専門医 ・ 当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者
研修目的	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の高度な知識、技能を習得する ・ 研究:国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者 ・ 機会に応じて、臨床試験、医師主導試験の計画・実施に参画する ・ 日本消化器内視鏡専門医・指導医取得を目指す
研修内容	・ 2年間、消化器内視鏡科に特化して、より高度な内視鏡診断・治療を研修する ・ 検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得と、内視鏡検診に関する研究を行う研修も可能である
研修期間	2年間
研修の特色	・ 基本的な消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の経験と実績を有する医師を対象とし、将来のリーダーを育成する ・ 修了後は、地域がんセンターなどでの中核スタッフとして推薦できるレベルを目指す

§ 副次的なコース

●レジデント2年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:総合内科専門医、外科専門医
研修目的	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本的な知識・技能を習得する ・ 専門医取得:消化器内視鏡専門医 ・ 研究:国内・国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
研修内容	・ 第1年次初期および第1年次後半から第2年次にかけて消化管内視鏡科を研修する。ローテーション期間は12か月以下とする。 ・ ローテーション期間では、病理科など診断部門および内科部門が選択可能である。 ・ 検診センターでの高度なスクリーニング消化管内視鏡技術の習得を目指す研修も可能である。
研修期間	2年間 ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う。
研修の特色	・ 消化器内視鏡を中心に幅広い診療経験をつむことが可能 ・ 内視鏡の基礎となる病理科での研修も可能 ・ 国内・国際学会、Peer review journal論文執筆等の研究活動の機会も確保

●連携大学院コース (内視鏡 PhD コース)

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:総合内科専門医、外科専門医
研修目的	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本から高度な知識、技能を習得すると同時に、学位取得を目指す ・ 専門医取得:消化器内視鏡専門医 ・ 学位取得:社会人大学院制度(順天堂、慶応、慈恵医大等) ・ 研究:国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
研修内容	・ レジデント2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラム ・ 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられる ※ 前半の2年の研修期間は、当該コースの内容に準じる ※ 後半の2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じる
研修期間	4年間 ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う
研修の特色	・ 消化管腫瘍に対する内視鏡診断・治療の基本から高度な知識、技能を習得すると同時に、学位取得を目指すコース ・ 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能

§ その他のコース

●レジデント短期コース

対象者: 希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法: 研修方法: 6か月~1年6か月。内視鏡科(消化管)研修
※6か月を超える場合は病院の規定に基づきCCM研修を行う

レジデントプログラム ■ 消化管・胆膵内視鏡エキスパート

●レジデント2年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:総合内科専門医、外科専門医
研修目的	消化管内視鏡科および肝胆膵内科において消化管・胆膵内視鏡の専門的な知識・技能を習得する
研修内容	・ 消化管内視鏡科を2~3か月(CCMが入った場合には2か月)研修し、その後は希望の科を希望の期間研修する。 ・ 病理科など短期間ローテートも可能であるが、主2科で18か月以上のローテートを必須とし、どちらかの科は6か月以上ローテートする。 ・ 肝胆膵内科では胆膵内視鏡の検査、治療が主たる目的の入院患者を主に担当しながら、検査、治療全体に携わる。
研修期間	2年間 ※病院の規定に基づきCCM勤務を行う
研修の特色	がんに特化した高度専門医療機関で、消化器に関わる内視鏡診断・治療を網羅した研修を行える。

§ その他のコース

●レジデント短期コース

対象者: 希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法: 6か月~1年6か月。内視鏡科(消化管)および肝胆膵内科研修
※6か月を超える場合は病院の規定に基づきCCM研修を行う